番　号	3	平成30年度公共事業事後評価調書	担当課名[農地保全課]

事業名	一般農道整備事業	事業主体	静岡県
箇所名	中伊豆修善寺（なかいず しゅぜんじ）	市町名	伊豆市

事業概要

受益面積	２３５ha	採択年度	平成２年度	完了年度	当初	平成１７年度
					実績	平成２４年度
事業費	当初又は前回	２，３１０百万円（H12計画変更）	実績	２，２２５百万円		
事業量	農道工　延長４，１０６ｍ　幅員５．０ｍ（６．０ｍ）					

事業の目的・必要性

本地域は、旧中伊豆町、旧修善寺町にまたがる中山間地域で、狩野川の支流、大見川流域の平地にほ場整備された水田が広がり水稲などの栽培が盛んな農業地域である。しかし、地域内は基幹となる道路が未整備で、大見川、冷川など、大小の河川によって地域が分断されており産地としての一体性に欠け非効率な営農・流通を余儀なくされていた。

このため、ほ場での大型農業機械の利用や通作、ライスセンター等への流通の改善による営農の省力化を図ると共に、地域の一体性を高め担い手農家への農地集積など農地の適正利用を図るため地域内を縦貫する基幹的農道を整備した。

事業の効果等

費用対効果分析結果		B／C	総費用	総便益	基準年
	前回計画変更(H12)	1.02	23.17 億円 （事業費：23.17億円）	23.64 億円 （農業生産向上効果：2.43億円 農業経営向上効果：16.89億円 生活環境整備効果：4.32億円）	平成12年
	事後	1.70	38.79 億円 （事業費：38.30億円 再整備費等：0.49億円）	65.97 億円 （食料安定供給確保効果：62.01億円 農村振興効果：3.96億円）	平成29年

１）費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

・土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの改正による評価期間、便益等分析手法の変更に伴い、総費用、総便益が増加した。

・農道整備により、輸送時間の短縮や運搬車の大型化（動力運搬車・軽トラックから軽トラック・小型トラックへ）による営農労力の大幅な節減が図られた。

２）事業効果の発現状況

＜食料安定供給確保効果＞

・走行経費節減効果：ほ場から集出荷場への輸送時間の短縮

事業前：61時間/ha　→　事業後：　4時間/ha（93%減）

総労働時間（水稲・中規模）

事業前：258時間/ha　→　事業後：201時間/ha（22%減）

※農道整備による輸送距離の短縮、走行速度の上昇により輸送時間が短縮した。

・品質向上効果（荷痛み防止効果）：荷痛み防止効果発生面積　68.5ha。

生産物（野菜類）の商品化率が向上。

事業前：平均87%　→　事業後：平均90%（３%増）

※舗装により荷痛みを軽減でき、共販・直売などの野菜の品質が向上した。

＜農村振興効果＞

・一般交通等経費節減効果：混雑する県道の回避や、集落間を通過する一般交通車両の走行経費が節減されるとともに、地域住民の利便性や日常生活における安心度の向上が図られた。

事業により整備された施設の管理状況

・施設管理者である伊豆市により、適切に管理されている。

事業実施による環境の変化

（１）農業生産力の強化について

・本事業の基幹的農道の整備により、県営ほ場整備事業中伊豆地区や修善寺地区等で整備された農用地が縦貫できるようになり、ライスセンターや農産物集荷施設、農産物直売所への交通ネットワークが確保され、農産物や生産資材の運搬をはじめ営農に係る流通の効率化が図られた。

・ほ場整備事業（他事業で整備済み）と農道整備が一体となり営農の省力化が図られたことで農家の生産意欲が高まり地域ブランド米となっている「伊豆の恵（特別栽培米：減農薬・減肥料）」の栽培や、新たな特産品開発の一環として大豆栽培が導入され６次産業化にも結びつき農業の振興が図られている。

「伊豆の恵」の栽培面積　事業前： 0ha　→　事業後：20ha

大豆の栽培面積　事業前： 0ha　→　事業後： 9ha

・事業完了後、農地の流動化が図られ受益内の認定農業者等に集積が図られている。

認定農業者等の経営面積　事業前： 0ha　→　事業後：26ha

（２）農村生活環境の変化について

・本農道の整備により、分断されていた農村集落が結ばれ、観光シーズンや土日に混雑する県道の迂回や集落間の移動がスムーズとなり、地域住民の利便性・安全性など生活環境の向上が図られた。

・中伊豆地域では、地域ならではの食材や農村景観などを活かしたグリーンツーリズムが盛んであり本農道周辺でも農業体験やイベント、直売等の取組が活発に行われている。

社会経済情勢等の変化

（１）地域社会の動向

・平成30年３月に「静岡わさびの伝統栽培」が世界農業遺産に認定されたことから、今後わさびを活かした地域振興が期待される。また同地域は「ふじのくに美しく品格のある邑」に「日本一の水わさびの邑」として登録されている。

・道路沿線にあるジオサイトには、県指定天然記念物である化石が含まれる地層があり、このジオサイトを含む「ジオパーク伊豆」が平成30年４月に世界ジオパークに認定されたことから、道路利用者が増加している。

・2020年には近隣の「ベロドローム」において、自転車競技のオリンピック・パラリンピックが開催されることから、準備やプレ大会等の開催により、道路利用者の増加が見込まれる。

（２）地域経済の動向

・中山間地域総合整備事業で設置された活性化施設「季多楽」やJA伊豆の国が運営する「農の駅伊豆」などの農産物直売所が整備されも地域内外からの訪問者が増加している。

・受益地近隣には遊休農地を活用したぶどう栽培と「中伊豆ワイナリー」など既存の観光資源と連携した農村体験ツアーなど豊かな農村資源を活かし農業と観光を連携したまちづくりが進んでいる。

対　応　方　針　（案）

（１）評価結果

・事業効果は発現しており改善措置の必要はない。

・農道（橋梁含む）整備により走行経費の節減と共に旧中伊豆町・修善寺町の産地が一体化することで人・農地のマッチングが円滑化し担い手農家への農地集積によって適正な農地利用が図られている。

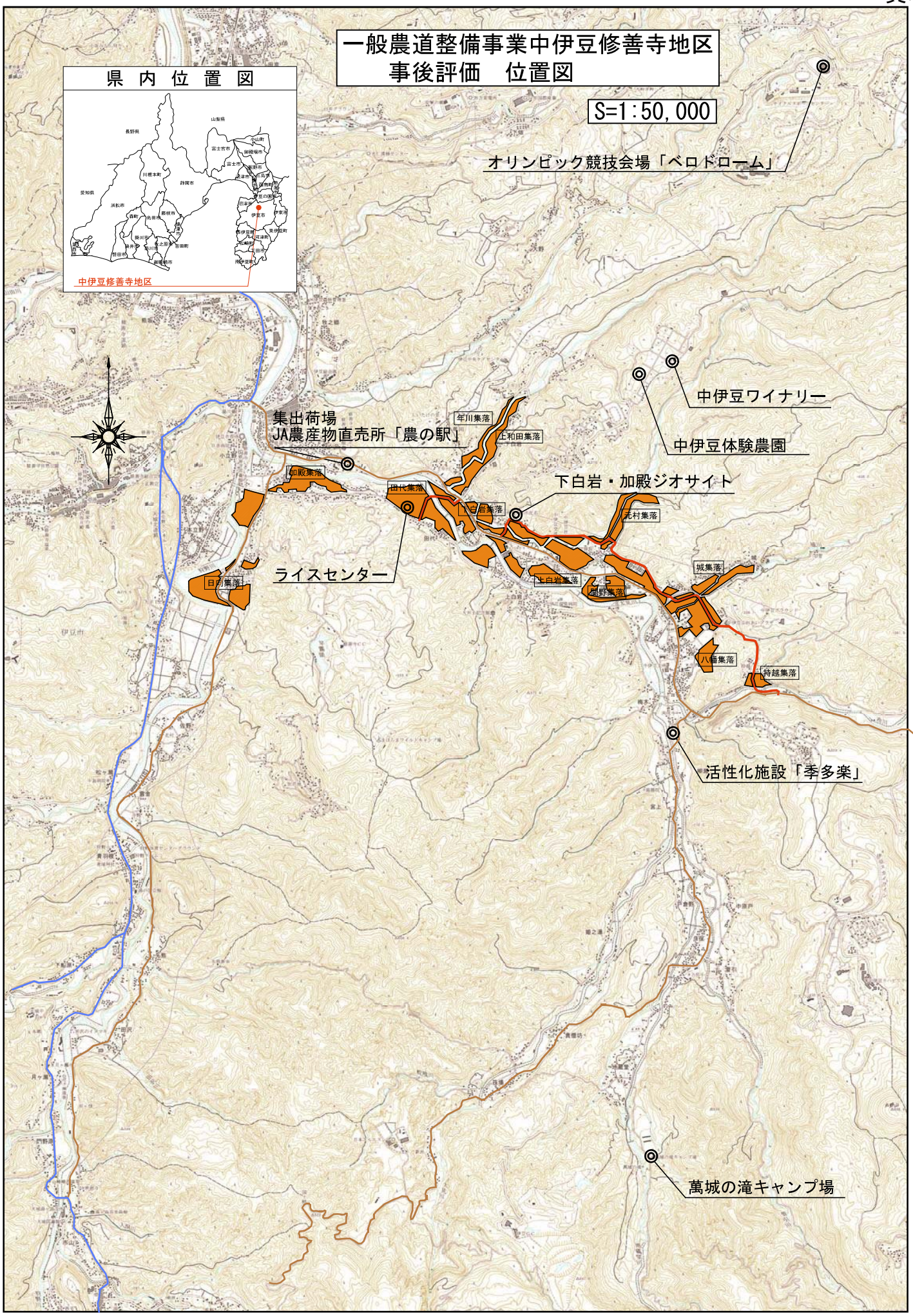
・農道の整備により営農以外でも集落間のヒト・モノの流通が改善され生活の利便性が高まった。

（２）今後の課題等

・世界ジオパークの認定やわさびの世界農業遺産認定を受け、今後交流人口の拡大が予想され、農道への一般車両の流入も想定されることから、農作業に支障とならないよう安全対策等を検討していく必要がある。

（３）同種事業への反映等

・本事業は、区画整理、用排水改良といったほ場の生産基盤整備（他事業で整備済み）と一体的な構想のもと事業化したものであり総合的な効果の発現により農業振興が図られている。
今後とも地域条件を踏まえ効果の高い基盤整備事業を総合的に計画していく。


一般農道整備事業中伊豆修善寺地区
事後評価　位置図
S=1:50,000
県内位置図
中伊豆修善寺地区
オリンピック競技会場「ベロドローム」
中伊豆ワイナリー
中伊豆体験農園
集出荷場
JA農産物直売所「農の駅」
年川集落
上和田集落
加殿集落
田代集落
下白岩・加殿ジオサイト
上白岩集落
元村集落
ライスセンター
日向集落
城集落
上白岩集落
石野集落
八幡集落
待越集落
活性化施設「季多楽」
萬城の滝キャンプ場

一般農道整備事業中伊豆修善寺地区　事業効果説明資料

●事業効果の発現状況

【整備状況】

【事業実施前】

地区内の農道は狭幅であり、歩行者と混雑し、通行車両が限られる等、営農に支障が生じていた。

【事業実施後】

拡幅改良により、普通車や2ｔトラックの通行が可能になるなど、営農の大幅な省力化が図られた。

旧中伊豆町・旧修善寺町をつなぐ「大見橋」
産地の一体化が図られ、輸送時間が大幅に節減

本農道の整備により、
1　輸送経路が短縮。
　ほ場から集落・集出荷場の距離が減
　　ほ場から集落
　　L=2.85km→2.37km（0.48km減）
　　ほ場から集出荷場
　　L=4.74km→1.96km（2.78km減）
2　輸送時間が短縮。
　時速5km→30kmへ速度向上
3　輸送時の作物の痛みが減少。
　商品化率　87%　→　90%
　商品化率が3%向上

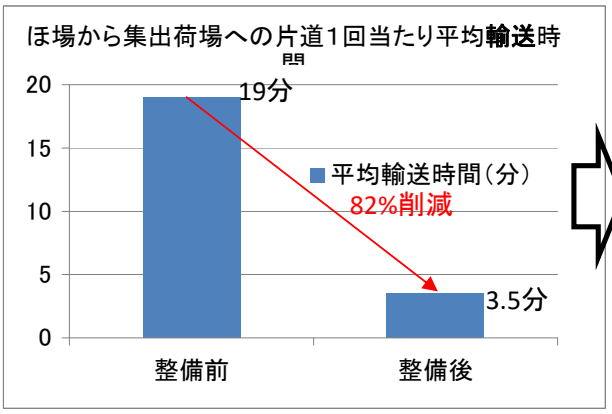
●事業実施による環境の変化

JA農産物直売所「農の駅」

地元で採れた新鮮野菜等が並ぶ「農の駅」

受益地内で生産される特別栽培米（減農薬・減肥料）「伊豆の恵」

H28 認



認定農業者等の経営面積

整備前
0ha

整備後
26．0ha

●社会経済情勢等の変化

遊休農地を活用したぶどう栽培とワイン醸造を行う、中伊豆ワイナリー（平成11年度開業）

世界ジオパーク認定・農道沿線のジオサイト

「日本一の水わさびの邑」が登録

「静岡わさび」が世界農業遺産に認定